

部門長首脳会談開催

EMAタイムズ

くろだより
EMA特別号
糖質制限クリニック・鹿児島
市立病院
黒田亮太

叩かれても情報発信続けた者勝ち



笑顔が熊かわいしい加藤医師

「フレ広告」成功セリ。人をいかに集めるか、何をすれば効果的か。

時代はSNS多用へ

コース開催か、ホームページか、レジナビか。その疑問に答えた主催の志賀医師は「情報をともかく発信し続けること。必ず叩かれるがそれでも続ける。僕も本を書く。と必ずアマゾンで叩かれるがそれでも続ける。ホームページは興味がある人が見に来る程度だが、フェイスブックやツイッターはともかくシェアしてもらうことでターゲットになり得る人にダイレクト

に届く。解析も容易で効果的な単語や記事も把握出来る。メールのタイトルも開いてもらうにはある一定のルール、秘訣がある。それは是非このコースに参加して直接学んで欲しい。新たに出版した『今の若い者は・・・って嘆いていませんか(メデイカルサイエンス)』を賣うとより効果的」とさすがのPR力を発揮。早速同日には参加者MLも作成され、懇親会後には参考書や文獻一覧の他、新聞作成アプリと非公開の作成例「くろだより」も公開された。

シェア・シェア・シェア

離島や精神科医 麻酔科も参加

部門長のためコース、EMA Directors Academyが2月10、11日の2日間、東京ベイ浦安市

川医療センターで開催された。日本全国から救急医を始め麻酔科医、精神科医、吉岐といった離島からの参加もあり、白熱した議論が連日行われた。
コースは菅隆(国際医療福祉大学)、山上浩(湘南鎌倉総合病院)、渡瀬剛人(ワシントン大学)、加藤陽一(熊本赤十字病院)、井出恵美子(東京ベイ)により定期開催され、今回も満席の21名が参加。内容は人気部門の11の秘

訣から構成され、参加者はそれぞれ自分の悩みを持ち寄り共有した。
シフト作りたい
効果的な人員配置を考えるため限られた人数でのシフト調整をシミュレーションする場面では、5名の救急医をどう配置して良いか急体制を築くか試行錯誤。頭を悩ませ2交替、3交替などを併用して5名を配置した。感想を問われ

楽しく待たせよ

た吉岐の麻酔科医は「そもそも1人でシフトを作ったことも無い。シフトを作りたい。」と全米が泣いたレベルのシーンも見られた。

不安のある待ち時間、理由の分からない待ち時間を含め待ち時間の科学を渡瀬医師が解説。それを聞きながら黒田医師は「業者を延々と出待ちさせる医師業者間の関係も改善させるべき。来たら電話呼び出しでも、ライン連絡でもいいから無駄な待ち時間を減らし有効に使って」としているため極めて業者との関係が良好だとか。これも一種の待ち時間の科学かも。」

編集後記

浦安には朝5時から魚市場で美味しい海鮮丼が食べられる味館食堂がある。2日目に訪れ特選海鮮丼か大海老天丼かで長時間悩み、大海老天丼を注文した。心躍らせ目の前に出てきたのは天ぷら定食。作らせ直す勇氣は無く、人生で最も天つゆに浸しまくる行動に出た。「やはりどう頑張っても天丼にはならない。また来たい。」リベンジに近い浦安を後にした(黒田)